

2023. 1. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター 直通電話設置のお知らせ】

※直通電話の番号は、083-924-2113（子ども読書支援センター）です。どうぞご利用下さい。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：2月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組程度
《1月のおはなし会で使った本》

『もちつき・おしょうがつ』 チャイルド本社 2014.10

『まいごのうさぎぼうや』 新井洋行/作 教育画劇 2011.4

『とんとんとん』 あきやまただし/作・絵 金の星社 2019.2

★第2回子どもと本をつなぐスキルアップ講座

○日時：令和5年2月4日（土）13：30～15：30

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム（Microsoft TeamsによるLive配信有り）

○講師：高宮 光江氏（科学読物研究会会員）

○内容：【講義】「子どもに科学の本を手渡すには」

～科学の本へと導くさまざまなアプローチやブックトーク、科学の本の紹介～

○対象：県内の子ども読書ボランティア、公共図書館職員、司書教諭、学校司書、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等

○定員：会場60名（要申込み、先着順）オンライン参加30名（要申込み、先着順）

○申込方法：別紙参加申込書によりFAX、電子メール、又は持参での申込（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。） *事前アンケートあり

○申込締切：令和5年2月1日（水）17時（定員になり次第、締め切り）

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『フライパンヤ』 加藤休ミ/作 講談社 2022.11 ¥1200

ページをひらくと、「パン」とフライパン登場。「ポポポ」と火をつけて、「スイーンスイーン」とまずはベーコン投入。「バブ」っと焼けたおいしいそうなベーコン。ホットケーキのたねを「ポポポポポワァー」とながしこんだら…「スモウクスモウク」焦げちゃった。もう一度挑戦、「ワンスモア!」「ワヘンダフオ～」おいしい音と不思議なリズムがいっぱいの楽しい赤ちゃん絵本。

＜絵本－5、6歳から＞

『おうさまのまえでみぎむけーみぎ!』 柏原佳世子/作 KADOKAWA 2022.12 ¥1400

王さまのお誕生日会に、特別なあいさつを披露することになった家来たち。さっそく練習がはじまったが、リーダーが「みぎむけーみぎ!」「ひだりむけーひだり!」と号令をかけても家来たちははてんでばらばら。困ったリーダーは、苦肉の策を思いつくが…。家来たちのボンコツぶりに思わず微笑んでしまうユーモア絵本。「おうさまがかえってくる100びょうまえ!」の続編。

『わたしはどこでしょう?』 藤川智子/作 中村浩訳/監修 橋本永興/監修 講談社 2022.11 ¥1600

おじいさんのお店は、昔からある人形やおもちゃを売っている。だるま、いぬ、こけし、たい、ふくすけ、まねきねこなど、日本全国のおもちゃが大集合。店先に飾る人形を探す手伝いを頼まれたばく。たくさん種類のおもちゃの中からうまくみつげだすことができるかな?巻末には、答えと郷土玩具や縁起物の説明が掲載。絵探しを楽しみながら伝統工芸の知識を深めることができる。

＜絵本－小学校低学年から＞

『たびする木馬』 牡丹靖佳/作 アリス館 2022.11 ¥1600

メリーゴーラウンドの木馬のブラン。名付けたのは毎週のように乗りに来る男の子。背中に男の子をのせたブランは、まるで空を飛んでいるかのように回りはじめ、共に流れゆく景色を楽しんだ。いくつも季節がすぎ、いつしかメリーゴーラウンドも乗る人がまばらになり、ブランは隣の国へ売られることに…。ある木馬の一生と再生を淡い色合いと優しいタッチで描いた美しい絵本。

＜絵本－小学校中学年から＞

『ピージョのごちそう祭り』 川端誠/作 偕成社 2022.11 ¥1300

ピージョには4つの村がある。春と秋の満月の日にひらかれる「ごちそう祭り」では、村の食材を使った新しい料理が毎年披露。料理のコンクールの審査員は子どもたち。各村が料理の腕をあげようと切磋琢磨している。祭りにかかせないのがピージョでいくら食べても空腹になる不思議な飲み物。とびきりのごちそう、みんなの笑顔、にぎやかなお祭りの様子が伝わってくる楽しい絵本。

『鳥をつくる』 メグ・マッキンレー/文 マット・オットリー/絵 井上舞/訳 化学同人 2022.11 ¥1900

鳥をつくるのに何が必要だろう。からっぽでもとても軽いたくさんの小さな骨。からだをあたため空を飛ぶための羽。壊れやすい骨組みのなかには、海や大陸をこえはるかな故郷へと飛んでいける、丈夫でしっかりとした心臓。それでも鳥がほんとうの鳥になるためには足りないものがある…。詩のような繊細な言葉と透明感のある絵で、ものづくりの素晴らしさと感動を伝える美しい絵本。

＜読み物－小学校低学年から＞

『ほしとそらのしたで』 矢崎節夫/作 高島純/絵 フレーベル館 2022.11 ¥1360

さかなのぼうやに星をだしてあげたいかみ。ありに虹を渡らせてあげたいつゆくさ。星と空をテーマにした優しい気持ちになる6つのメルヘン。作者は、童謡・童話の世界で活躍し、山口県長門市にある「金子みすゞ記念館」の館長を務める。2021年児童文化功労賞受賞。本作は40年前に出版された作品の新装版。同じ画家が現代風にアレンジしている挿絵も見どころ。

<読み物—小学校中学年から>

『金色の約束』 松本聰美/作 黒須高嶺/絵 国土社 2022.11 ¥1400

3年生のあることがきっかけで、お互い疎遠になってしまった光輝と智彦。あれから2年、かつて二人がよく遊びに行っていたあずま屋のじいちゃんが亡くなったという。ある日、じいちゃんから二人宛に届いたのは、砂金採りグッズと手書きの地図。ぎくしゃくしながら砂金採りに出発する二人。思いをぶつけあいながらも、協力し合い友情を深めていく少年たちの冒険の物語。

<読み物—小学校高学年から>

『ティゲルファル』 斉藤洋/作 中川悠京/絵 あかね書房 2022.11 ¥1300

病によって生死をさまよい目覚めると辺りには誰もいないことを知った少年。仲間を探しに行く途中である老人と出会いともに旅することになった。老人からは様々なことを学ぶ。やがて新しい仲間と暮らすようになりティゲルという獣を倒したことから「ティゲルファル」と呼ばれるようになる。人類が群れを作り言葉や道具を使い協力して生活し子孫を残していく様子が描かれた物語。

『ペランダのあの子』 四月猫あらし/作 小峰書店 2022.10 ¥1580

私立中学校への受験を控える小学6年の颯。成績や姿勢について父親から殴られ蹴られる。母親は助けてくれる様子もない。ある日ペランダに放り出された颯は向かいのビルのペランダにいた女の子を見つける…。愛情や憎しみ、怒りや恐怖など様々な感情に翻弄されながら必死に自立へと立ち向かう少年の物語。作者は、元学校図書館司書。本作は第20回長編児童文学新人賞入選作品。

<読み物—中学生から>

『手で見ると世界は』 櫻崎茜/作 くもん出版 2022.11 ¥1400

中途失明の佑にとって、道しるべのような存在だった双葉。佑は支援学校中学部に進学して寄宿舎生活が始まったが、同級生が増えた新学期の教室に双葉の姿はなかった。入学前の事件をきっかけに家から出られなくなった双葉と、自信がもてず白杖を使えない佑。それぞれが葛藤に立ち向かい、再び自分の足で踏み出すまでの1年間を描いた物語。テキストデータ引換券つき。

『青の刀匠』 天沢夏月/著 ポプラ社 2022.11 ¥1600

高校2年生の夏休み最後の日に火災で大火傷を負い、炎の記憶に苛まれるコテツ。子どもを救うと火の中に戻った父親の意識が戻らないため、遠縁の老婦人剣田かがりの家で暮らすことに。島根県三保関の自然の中で鍛えられる日本刀の厳しさと美しさ、周囲の人々の心の芯に触れるうちに、コテツの心に少しずつ変化が…。生きる目標を失った孤独な少年の成長物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『すいどう』 百木一朗/さく 福音館書店 2022.11 ¥900

地面から噴き出る水をきっかけに生まれた、蛇口から流れる水はどこからきてどこに行くのかという素朴な疑問に答える。水が水道管を通り、使用され下水管を流れ、きれいな水になって海に流れ着くまでを描く。水の循環の様子や、水道に関わる仕事、町の水道管の仕組みについて分かりやすく説明。『かがくのとも』から生まれた絵本。作者は、工業デザイナー、造形作家。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『読書ってこんなに楽しい!? 齋藤孝流とっておきの本の読み方』 齋藤孝/著 小学館クリエイティブ 2022.11 ¥1400

1万冊以上の本を読んできた筆者が気づいた読書のいいところや本の読み方について分かりやすく語り口調の文体で解説する。『やまなし』や『くもの糸』などの10の名作をいろいろな視点から読み解く。マンガやテレビについてのコラム、読書感想文の書き方も掲載。巻末には筆者がおすすめるスペシャルブックリスト100を添付。子どもの読書に関わる大人にもおすすめの一冊。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『障害とバリアフリー いっしょに生きる子どもブックガイド』 障害と本の研究会/編著 かもがけ出版 2022.11 ¥2000

障害とバリアフリーをいろいろな視点で考えるきっかけとなる本を、小学校中学年以上を対象に155冊紹介。「本を読みたい」「バリアをこえて」等8つのテーマで、絵本や物語、ノンフィクション等紹介する本は様々。読書バリアを研究する大学教授やIT企業で働くろう者等のコラムも掲載する。1冊ずつテーマとキーワードから探す索引、人名、書名の索引付き。

<ノンフィクション—中学生から>

『つくと食べるをつなぐサイエンス 最先端の生物生産学図鑑』 三本木至宏/監修 恒星社厚生閣 2022.11 ¥1800

広島大学生物生産学部の教員が、鳥類・哺乳類・農業と昆虫・海洋・微生物の各分野について、中高生へ向けて最新の研究成果を図や写真を多用して解説。近年の課題である環境破壊や食糧不足への対応だけでなく、「食べる」につながる様々な最新科学技術が、化粧品や医薬品の開発などにも応用されていることも紹介。執筆を担当した全教員のプロフィールと連絡先の記載あり。

<研究書>

『遊びは勉強友だちは先生 「ズッコケ三人組」の作家・那須正幹大研究』 藤田のぼる 宮川健郎 津久井恵 ポプラ社編集部/編 ポプラ社 2022.11 ¥2700

2021年7月に亡くなった児童文学作家、那須正幹。彼が遺したことばと作品について、現代の視点で編集者や作家たちが読み解き、それぞれのことばで綴った「研究書」。本書のために寄せられた「手紙」の執筆者の多さからも、生前の彼がいかに慕われていたか窺い知ることができる。巻末に「略年譜&主な作品」の掲載あり。見返しは自筆原稿でデザインされている。

『まちよみ・またよみ 絵本を使った子育てのすすめ』 内田早苗/著 岩崎書店 2022.11 ¥1500

著者はNPO法人「絵本で子育て」センター認定の絵本講師で、テレビ番組にも出演経験がある。「まちよみ」は「子どもを待って読む」からの造語で、「またよみ」は「マタニティ期から絵本読みきかせ」の略語。著者自身の経験をふまえ、子どもの育つ力を信じて待ち、気楽に絵本を子育てに取り入れてほしいという思いを込めた1冊。Q&Aでは身近な疑問や悩みへの回答を紹介。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

